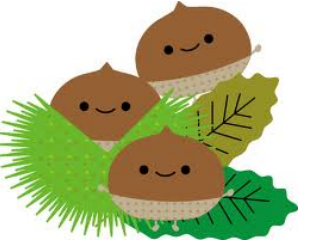


小布施の魅力再発見!?古地図ラリー!! 問題解説



Q1 小布施駅周辺は「字親木」と呼ばれていますが、その理由は次のうちどれでしょうか?

- 1, 大小の木を親子に例えていたことから
- 2, 親の無事を祈った木があったから
- 3, 栗の原木(もとの木)があったから

答え 3

—解説—

栗の木を育てるには酸性の土が合っていて、普通は薬で土を酸性にします。しかし、小布施に流れる松川はもともと魚が住めない酸性の川なので、その川の水を引く小布施は、栗の名産地なのです。

Q2 小布施に駅が出来たのは、何年でしょうか?

- 1, 明治12年(132年前)
- 2, 大正12年(89年前)
- 3, 昭和12年(75年前)

答え 2

—解説—

大正12年3月26日に小布施駅はスタートしました。その頃、長野電鉄線は、河東線と呼ばれていました。

Q3 むかし、この建物は何に使われていたでしょうか?

- 1, 蚕を育てるところ
- 2, 食べ物を置いておくところ
- 3, お客様さんに泊まってもらうところ

答え 1

—解説—

高級な栗を育てる平松家の蔵。むかしは、蚕を育てるように蚕室として使われていました。蚕室の柱はすべて、栗の木でできています。今は、コンサート会場として使うこともあるそうです。

Q4 二匹のカブトムシ像のそばに、もうひとつ昆虫の像があります。次のうちどれでしょうか?

- 1, トンボ
- 2, チョウチョ
- 3, クワガタ

答え 1

—解説—

カブトムシの像があるのは、実はカブトムシは栗の木の樹液が大好きだからです。正解のトンボは、はっきりした理由は分かりませんが、栗が獲れる秋にトンボの姿が多く見られるからではないでしょうか。

Q5 小布施で、1808年はじめて栗を使ってつくられたお菓子は、次のうちどれでしょうか?

- 1, 栗ようかん
- 2, 栗らくがん
- 3, 栗かのこ

答え 2

—解説—

栗のお菓子は、栗らくがん→栗ようかん→栗かのこ、の順に作られました。栗らくがんは、今は赤えんどうの粉が使われ、栗の粉は味付け程度に使われています。

Q6 小布施町役場の石碑の句を詠んだのは誰でしょうか?

- 1, 松尾芭蕉
- 2, 与謝蕪村
- 3, 小林一茶

答え 3

—解説—

一生で詠んだ句の数は、芭蕉が978句、蕪村は2918句、そしてなんと一茶は21000句とされています。一茶は日常の事も多く詠んだために、他の二人よりも数が多くなっています。

Q7 押羽地区では、神様が馬に乗って押羽の里を訪ねたとき、ある事が起こり栗を植えなくなったといわれています。何が起こったのでしょうか?

- 1, 栗が神様の目に落ちたから
- 2, 栗が神様の足に落ちたから
- 3, 栗が神様の頭に落ちたから

答え 1

—解説—

「栗と神さま」という物語。他にも小布施町内には計10か所の物語ボックスが置かれています。

Q8 小布施駅ができたころ、須坂まで行くのに汽車で何分くらいの時間がかかったでしょうか?

- 1, 10分くらい
- 2, 20分くらい
- 3, 30分くらい

答え 2

—解説—

むかしは、蒸気機関車で運転していたので、今よりも時間がかかったようです。本当は信越線が小布施駅を通るはずだったのですが、その頃の町の人たちが機関車で空気が汚くなることを嫌がったので、この計画はなくなったそうです。

